

## 第 1 回彦根市公共交通活性化協議会 議事録

開催日 平成 21 年 7 月 30 日 (木) 午後 6 時 ~ 午後 8 時

開催場所 彦根市民会館第三会議室

出席者 別紙のとおり

### 1. 開会

委員自己紹介

平成 21 年度彦根市地域公共交通活性化再生総合事業計画の認定の報告

協議会規約第 8 条第 3 項により会議が成立していることの確認

### 2. 議事

( 1 ) 平成 20 年度事業報告について

( 2 ) 平成 20 年度収支決算報告について

松田会長

本日の議題は、平成 20 年度事業報告について、平成 20 年度収支決算報告について、平成 21 年度事業計画案について、平成 21 年度予算案についての 4 点、事業の進捗状況の報告でございます。

まず、平成 20 年度事業報告、平成 20 年度決算報告の 2 点についてお諮りいたします。資料 2 をご覧願います。事務局から説明をお願いします。

事務局 (宮川)

< 資料 2 により説明 >

松田会長

続きまして、監査報告を 監事の野本委員からお願いします。

野本委員

< 監査報告 >

松田会長

事務局から平成 20 年度事業報告および収支決算について説明がありました。何かご質問やご意見がありましたらお願いします。

山崎委員

640 万円のうちの 540 万円が調査委託料、100 万円を除いたものが調査委託料ということですが、調査委託料がどこに該当するのですか。どこにどう生かされているのか。アンケートに大半を占めたのか、実証運行のシミュレーションをしたのか。

事務局

枠内の事業に使用しています。

山崎委員

内訳について説明がほしいところです。

野本委員

実際のオペレーショナルな経費になります。

山崎委員

報告書は出ているのですね。また見せてください。

- ( 1 ) 平成 20 年度事業報告について  
( 2 ) 平成 20 年度収支決算報告について  
については承認された。

松田会長

野本先生、近藤先生、20 年度の事業を振り返って、何かございましたら一言お願いいたします。

野本委員

彦根市で長年参画させていただいていますが、膨大な赤字で行政改革・規制緩和で地方の公共交通で第三セクターで担うとして国県市で支えながら地域の交通不便者のために広域に運行していますが、これまでのデマンド型導入すべきかどうかの議論がありましたが、実証実験をするまでになり、徐々に着実にご利用が増えているということですので、新しい交通手段を実証実験され、オペレーションされているのでよかったですと感じています。

近藤委員

まず、委託料は県立大学が受けていまして、システム科学研究所さんと一緒に、バスコン開催、アンケート実施、シンポジウムを実施し、報告書も作っていますのでまたご覧ください。

1 年間やってきていて、コンペ、ニュースレター、デマンドが始まっていますが、どの程度市民の方が関心を持っているかはまだ実感を得ていないと思っています。具体的に気になっているのは、目標値が最低でも横ばいしなければいけないところで、今の段階でどのようになっているのかが気になります。数値が連携計画の中でもすごい数値を描いていますので、今その目標に向かってどの程度まで来ているのかが気になります。前回も言いましたが、彦根市の施策としても定住自立圏や観光圏とかいろいろやっている中で公共交通の大きな枠組みの中でとらえたり、低炭素でとらえたりして取り組んだりして、いろんな課が取り組んでいかなないとなかなか増えないのではないかと思います。経過ができた上で具体的にいろんなところがどう取り組んでいくか、今年がその成果を少しでもかけらでも見せていかないとなかなかかなあと考えています。全市的なムーブメントにするにはキャンペーン的なものもしていかないと、と感じています。

松田会長

行政として路線バスの問題から始まって行き詰っている中で、公共交通をどうするかということ協議会おはかりして 2 人の先生を中心に市民の中に溶け込んでいただいて、いろんな形で関心を持ってもらいました。シンポジウムでは高校生があんなにもしっかり調べていることに感心しましたし、いろんな方がいろんな提案をしていただいています。この 1 年間思っていた以上の成果を挙げていただいております。今話が出ましたが、この彦根の近隣 4 町も定住自立圏として手を挙げている中に公共交通をどうするかということがあり、全国的に近畿の中でも注目されています。今は彦根市だけを考えていますが、これからどうするかということでは、4 町でも協議会を見ながらまた先生にご指導をいただきながらやっていくという方向になっていくのではないかと思います。いろんな形で問題提起をいただき、いろんな方法がある、それを市民の中に浸透いただいたことに感謝しています。

- ( 3 ) 平成 21 年度事業計画案について  
( 4 ) 平成 21 年度収支予算案について

松田会長

平成 21 年度事業計画案および平成 21 年度収支予算案についてお諮りいたします。資料 2 をご覧いただきます。事務局から説明をお願いします。

事務局（宮川）

<資料 2 により説明>

松田会長

市の予算などでは 1 円というのはありませんが、補助金がそうになっておまして、1 円単位まで経常しているものです。全体としては 1000 万円以上の事業をしているわけですが、補助金を受ける分だけの予算を計上するという事になっています。3 つの事業がありますので、事業の経過や進捗状況について説明をいただいたあとで承認をしていただくことにします。

### 3. 報告

(1) 三津屋線・彦根駅市立病院線のダイヤ改善について

(2) 路線バス河瀬南彦根線の改善について

事務局（(社)システム科学研究所 塩土氏）

<資料 3、パワーポイントにより説明>

松田会長

バスにかかるものがこの 2 件です。市立病院と連携している三津屋線と彦根駅市立病院線の 2 つについて、定期的に 30 分単位でバスを走らせようということで運行してはどうかということが 1 点、河瀬南彦根線については団地を中心に 3 本走っていますが、非常に乗る方が少ないということで、旧日夏地区を走る路線を幹線として彦根駅へ持ってくる、メインを日夏旧市街地へを基本にして彦根駅へ持ってきて、手薄になる地域を乗合タクシーを走らせたかどうかという案を事業計画として挙げています。老人クラブに聞いたり地元ヒアリングによって修正してくことにはなりますが、基本的にそのような考え方で 2 つの路線バスについて計画が挙がっています。老人クラブへのヒアリングがこれからですか。

事務局

もう終わっています。日夏地区等に日程調整をさせていただいています。

山崎委員

日夏から彦根駅へという希望は多いのですか。

事務局

新快速の関係で彦根まで延長してほしいというご要望もいただいています。今回の見直しの中で入れさせていただきたいと考えています。

樋口委員

病院や老人会という移動困難者を中心とした設定になっていると思いますが、私どもが若いときは彦根駅を降りると必ずバスがあった、通勤・通学に便利な乗り物であったはずですが、いつの間にか路線設定が結果として高齢者の方を中心とした路線設定になっています。通勤通学の人々が利用しやすいような、バスを使っていただいて活性化していくという考え方は基本的に彦根市さんとしてはないのでしょうか。確かにマイカー通勤が増えていますし、利用者が減っているのは確かですが、交通弱者と言われる人々を対象にしたものでは、国の予算があって実証実験で半分はもらえるのでよいのですが、その先の点を考えていかなければならない、その場合やはり通勤通学客を取り込んでいくようなものを、来年度の課題になると思いますが、そういう視点としてお願いできないか、環境面では、通勤客だけでなく企業の協力を仰いだ中で通勤客も取り込んで、構造的にバスの維持拡大をしていくようなものができ

れば、バス協会としては望ましいと思います。今回は、病院や老人会のことばが強調されていますので、基本的なスタンスを説明をお願いします。

#### 事務局

アンケート調査では6割の方が公共交通を将来利用したいと回答されていますが、23年度に100万人利用目標をどうするのかということになりますと、今の利用者だけでは追いつきません。企業の皆様も通勤の足を考えていかなければならない点です。それもあわせながら企業への積極的なPR方法を模索しているところです。企業へのアンケートも実施したいと考えています。いろんな角度からご利用いただく盛り上げ、低炭素宣言をしていますので、バスの位置づけをきっちりとPRしていきたいと考えております。

#### 松田会長

現実的には通勤通学なり、幹線を走るバスとして対応してきましたが、市の単純な持ち出しが1億近くになってきたということで、路線を減らしたりすると、移動手段を持たない人たちからの、交通弱者の問題がクローズアップされてきて、乗合タクシーや路線もそのようなところにも回れるように考えているわけです。市立病院へ稲枝から行きたいけれども、直接行くなら20分で行けるがバスなら1時間かかってしまうという不満もあり、そのあたりもどう解決するかという問題もあります。4町が入る定住自立圏でも、JR駅や近江鉄道駅へ行くのにどうするか、広範囲に足の便を考えるようになってきました。滋賀大学さんは彦根駅へのバスを持っておられますが、たくさんの方が乗っておられます。近江鉄道さんも大日本スクリーンへのバスをされており、非常にたくさんの方が乗っておられます。ポイントのものは通勤通学にあるかもしれませんが、その部分で昼間も走らせておくのは非常にしんどくなってきています。総合的に構築しながら一つ一つ解決していかないとえらいというのが現実です。基本的には財政上なにかをしようとするときに1億以上市税を投入するというのは対応できないということになっていますので、今は8千万円くらい出していますし、乗合タクシーは400万円くらい計上していますが200万円くらいで走っています、4町でも模索しています。いろんなものを組み合わせながら考えていかなければならないかと思えます。

#### 宮野委員

亀山学区のデマンドタクシーの方向性、考え方を教えてください。

#### 事務局（システム科学研究所）

河瀬駅を中心にして亀山学区、日夏町の奥の方を含めて、面的に、市立病院、友仁山崎病院などバスで行っていないところを含めて公共交通不便地域の解消を目指すことを現在考えています。このようなことを説明して、地元の方にもご意見をお伺いしているところです。

#### 宮野委員

今やっている鳥居本や稲枝とは、若干、層が違うのではないかと思います。駅につながるということですが、先ほど出ている通勤というイメージ、電車利用のイメージはゼロに近いと思います。今後の地域の方への説明について関心をもって聞いていきたいと思えます。

#### 山崎委員

資料P10に路線バスの収支状況が出ていますが、三津屋線と彦根駅市立病院線は路線バスの中では非常によく乗られている路線であるということですね。よく乗っている路線を路線バスの実証運行をしようというのは、おそらく収支の問題ではなく他の理由があってここを取り上げるということだと思えますが、なぜここを取り上げるのか、聞かせてください。21年度の実証実験として、他のところではなくて、なぜここを取り上げるのかを取り上げてもらってもいいかと思えます。一方で、河瀬南彦根線の乗

車密度 0.45、1 を割るとデマンドタクシーにかえるのが一般的ですので、そういう方向でやっているのは納得がいきます。

事務局（システム科学研究所 塩土氏）

今回の目玉は、コスト削減、利用を増やすという2つです。コストを下げるのが河瀬南彦根線、一番収支の厳しい路線のコストを削減しながら一方で維持していこうとしています。ご利用を増やそうとしているのが三津屋線と彦根駅市立病院線ですが、ご利用が見込めそうな路線を、PR やダイヤ調整でさらにご利用を増やそうとしています。コストをかければそれなりに利用は増えますが、それは意味がないので、あまりコストをかけずに現状のバスの状況を勘案すると、30分ヘッドダイヤとして使いやすいダイヤにすることでご利用のパイを増やすことができるのではないかと、利用が多いところでどれだけ収支を挽回できるか、というところを実験の柱として考えたところです。

近藤委員

次のニュースレターはいつ出るのですか。昨年度以来期間があいています。

事務局

全戸配付を考えていますのは、河瀬南彦根線等の改善をPRしたいと考えていますので、10月ごろに配付したいと考えています。今年度は4回程度予定しています。タイミングがなかなかありません。

近藤委員

せっかく昨年度5号でていますので、開きすぎているように思います。

松田会長

この会議でこのような意見が出ているということもよいですし、後半にまとめて出すよりも継続して出していただいたほうが良いと思います。

### (3) 稲枝地区・鳥居本地区予約型乗合タクシー実証運行について

事務局（(社)システム科学研究所 塩土氏）

<資料3、パワーポイントにより説明>

野本委員

バスを考えるのではなく、財政問題がありますので、お金がない、人手がない、他に解決方法があるかという時間をかけてきめ細かく地域住民のニーズをとって利用者を増やさないといけないという厳しい問題があります。

山崎先生がおっしゃっていた、三津屋線を取り上げた理論をもう少しクリアにしてもらいたい。コスト削減と同時に利用者増を図るところは分かりました。

松田会長

乗合タクシーについて庁内で担当者と話をしていると、もう少し停留所をアピールしてはどうかと申しましたが、なかなか置く場所がない、電柱や公民館に置いたりしていますが、ここが停留所だということをもっとPRしてはどうかと話しています。タクシーを購入したらどうかと言いますと、近江タクシーさんは、どのタクシーも連絡が入れば貼って乗合タクシーになる、非常に効率的に動いていただいています。あまりその部分をいじるとまたコストが高くなる。いろいろ思いはあります。市単で助成しながらやっている中では方法がいちばん大きさにかなっているのかと思っています。ただ、PRが少し少ない、登録された方が多いのに利用されていないので利用していただくにはどうするかということがあります。

近藤委員

PR というと、想定では 1000 人記念というか、ニュースで取り上げてもらうには、数えやすいかと思  
いますので、それも予定しておいてはどうかと思います。

事務局（システム科学研究所）

他の地域でもよくやっていますが、1000 人突破記念でグッズを差し上げたりはしています。

事務局

お盆頃に 1000 人になるだろうという予想はしています。PR のために 1000 人目の方に粗品程度のもの  
を差し上げたいと考えており、近江タクシーさんと相談しています。

山崎委員

愛のりタクシーの利用者数は鳥居本と稲枝が混在しているのですか。分けたらどうなりますか。

事務局

若干鳥居本の方が割合的に多くなっています。

山崎委員

鳥居本の場合は以前から全く路線バスがなくて全くの空白地域に新規サービスということですね。稲  
枝の場合は路線バスがなかったわけではなく、背景の違いが利用にどう違いが出ているのかというところ  
を聞かせてほしい。

事務局（システム科学研究所）

鳥居本はまったくバス路線がなかったところに新たに走りました。稲枝は稲枝循環線がございますが、  
稲枝地区はまったくバス路線がなかったところがございます。そこに走らせていますので、稲枝も鳥居  
本もバスがなかったところに走らせています。ただ利用の形態が一方が山地、一方は平地ですので、ご  
利用の形態が違うだろうという想定はしています。

山崎委員

プランを作ってこれから実証していくので、実験するというプラン作りだからそうなのでしょうが、  
実証してどんな結果が得られるかというのを科学的に統計をとって分析する、それを元にまた新しい改  
善を行なう、PLAN DO SEE のサイクルをしなければならないので、先ほどの説明では何も見えないの  
でどうなっているのかというところを聞きたい。

事務局（システム科学研究所）

実験中にアンケートを取っています。今日は手元に用意しておりませんが、摺針から定期的にご利用  
があったり、新海浜から市立病院等への需要が出ております。多くの方がこの路線があってよかった、  
というご意見があり、良いからこそご利用があるのだらうと考えています。今後も継続的にデータは取  
っていかないといけないと考えています。

山崎委員

それはそうですが、事業計画を立てるときに社会実験・実証実験がどういうものかが分かるようにし  
ていただかないといけないわけで、時間と場所を限定して実験する、実験したものについてちゃんとデ  
ータを取る、データを取ったものをどのように改善したらよいかデータを読む、またプランを作ると  
いうサイクルがあります。最初にそれを説明するようにお願いします。

#### (4) 公共交通便利マップ作成について

事務局（(社)システム科学研究所 塩土氏）

～資料3、パワーポイントにより説明～

松田会長

21年度事業で4つの主な事業が挙がっておりましたので、どのように考えているかについて説明していただきました。予算を含めて、事業計画等につきましてご意見ございましたらお願いします。

山崎委員

21年度収支予算ですが、総事業費1300万円、市の負担が600万円ですが、市の負担というのはどこへどのように入るのですか。

事務局

国の補助金で会議費や事務費は対象外ですので、その経費は市の負担になります。補助金が事業費が2分の1になっており、半分になっています。

松田会長

全体的に市の予算としては1300万円の事業をやっていますが、国の予算総枠がありますので、国からは600万円しかお渡しできません、それは市の会計に入れるのではなくて、協議会で使いなさいということになっています。

樋口委員

協議会の収支としてはそれを含めたものでしないと、国の予算だけの収支ではないと思いますが。トータルの中に収入もあり、支出もあると思います。

松田会長

協議会の予算としては600万円の予算しか組めません。1300万円の中にどのような予算があるかは市の予算書を説明しないと分からないと思います。

山崎委員

タクシー会社さんやバス会社さんに料金を払わないといけないですが、それを市が払うということではないのですか。協議会で何をやって、市がどこの責任を持つか。600万円のうちからデマンドタクシーの運行経費を出すわけではないでしょう。そのためのプランニングやワークショップ等に使うのであって、バス会社さんやタクシー会社さんへ支払うわけではないでしょう。

富家・野坂委員代理

事業費負担金は市への負担金であって、予算額だけ支出をされるのですね。市の歳入に入りますね。市で独自で取られた予算が700万円ほどあって、その合計1300万円で運行経費を含めて執行されるのですね。

山崎委員

協議会の責任範囲はどこまででしょうか。負担金は600万円ですから、それ相応の事業は何かということですか。

稲沢・野村委員代理

実証運行を含めて1300万円です。国のほうが2分の1をみましようということですから、残りは市の負担になるという形です。

富家・野坂委員代理

市への負担金の600万円の中に実証運行費も半分入っているということになります。

事務局

乗合タクシー実証運行費は今年度は補助対象となっています。昨年度は単費でさせていただいておりました。

山崎委員

昨年度は監査とぴたと合いますが、今年度は合わなくなりますから、ここで結論は出ないと思いま

すが、責任範囲とどこを監査するのかということになります。

事務局

先生がおっしゃっていますように、補助金が半分出ており半分は市単独でもっているという形になっていますが、協議会は半分しか予算計上しておりませんので、その監査をどうするかというご指摘をいただいていると思いますので、市単独分と補助金で一つのものという形になりますので、法定協議会については国の受け入れ施策で動かしているという経緯がございます。

松田会長

1300 万円を出さないとおかしくなってきましたが、650 万円を協議会が使って、650 万円はということかということを決算と同じようにしていれば問題ありませんでした。市の事業と協議会の事業が混同してしまいました。

富家・野坂委員代理

路線バス実証運行の記載がありますが、三津屋線等の 30 分ヘッドダイヤ、河瀬地区のバスをまとめる、等のバス路線は今よりも利用があがるという意味でそのような記載になっていると考えてよろしいでしょうか。昨年のバスコンがありました。この事業計画の中には出てこないのかもしれませんが、その作品の中から取り組まれるような事業があるようでしたら教えてください。

事務局

ダイヤ関係は委託の関係になりますが、運行経費を国のほうで見ていただくことはありません。ダイヤ改正についての委託料の中の部分になっています。21 年度での実証運行については愛のりタクシーの部分です。バスコンではいろんな提案をいただいておりますが、バス停設置の確認等はしております。一部企業についてはそのような要請をしており、話をさせていただいております。利用客の多いところから順次進めていきたい。

事務局（システム科学研究所）

最優秀賞をとられた方はいろんな提案をされていますが、路線図を分かりやすく使いやすくという提案について今回につながっています。

松田会長

予算・決算については、国から協議会にくるお金をどう使っているかという部分を占めさせていただいておりますので、このような形になりますのでご了解ください。すべて国のほうで 1000 万円のメニューがあればよいのですが、半分ほどの補助ということになりますので、このような表示をさせていただいております。

予算と取り組む事業について、地域へ入ったりして内容が変わってくるかもしれませんが、このような内容でご了解いただけますでしょうか。

(3) 平成 21 年度事業計画案について

(4) 平成 21 年度収支予算案について

については承認された。

松田会長

定住自立圏について、彦愛犬でこのようにバス路線が入っていますが、各町は福祉タクシー的なものを走らせたり、バスを購入して町内を走らせたり、いろんなことをしています。町長は自転車に興味をお持ちで、バイコロジーに関心をお持ちです。1 市 4 町で集まりながら協議をしています。彦根市の計



画に4町がどう乗ってくるか、ということになりますが、デマンドタクシーを走らせたいという方向にあるようです。定住自立圏のあるところには国のほうで手当で、支援してくれますので、そのお金を使いながらやっていくことになろうかと思えます。彦根市の先進的なところをお願いしないといけません。お二人の先生にはいろんな形でまたお願いすることになろうかと思えますが、その際はよろしくお願ひしたいと思えます。

最近道路特定財源が一般財源化、地域活力のほうに向けられたり、地域に特別な交付金があったり、いろんな形の中で公共交通をどうするかという点が盛り込まれています。公共交通をしっかりすることによって地域が力を持って日本の国が伸びていく、地域が力をつけていろんな形で取り組みをしていますが、その中にも公共交通があり、大きな課題として取り組んでいくこととなります。またこの場で報告ができることがありましたら報告させていただきます。

#### 事務局

当協議会では河瀬南彦根線の改善について11月運行開始を目指しておりますことから、本協議会規約第1条第2項に基づく地域公共交通会議として9月中に開催させていただきたいと考えております。早急に日程調整をさせていただきたいと思えますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

#### 4. 閉会

## 彦根市公共交通活性化協議会委員名簿

	団体等	職名	氏名	出欠
1	彦根市	彦根市副市長	松田 一義	出席
2	滋賀県	土木交通部管理監	野坂 尚宏	出席 (代理)
3	近畿運輸局滋賀運輸支局	首席運輸企画専門官	野村 義明	出席 (代理)
4	一般旅客自動車運送事業者およびその組織する団体	湖国バス(株) 代表取締役	角田 仁	出席 (代理)
		彦根観光バス(株) 代表取締役	大西 和弥	出席
		近江タクシー(株) 代表取締役	横幕 信一郎	出席
		(社)滋賀県バス協会 専務理事	樋口 俊助	出席
		滋賀県タクシー協会 専務理事	加茂 学	出席
5	一般旅客自動車運送事業者の事業用自動車の運転者が組織する団体	私鉄滋賀県協議会 副議長	田井中 修	出席
6	滋賀県彦根警察署	交通課長	村田 喜昭	出席
7	学識経験者	滋賀大学教授	山崎 一眞	出席
		滋賀県立大学准教授	近藤 隆二郎	出席
		聖泉大学教授	野本 茂	出席
8	住民または利用者	彦根市身体障害者更生会 副会長	中村 裕次	出席
		彦根市老人クラブ連合会 会長	宮野 武男	出席
9	道路管理者	湖東土木事務所 次長	三浦 良勝	出席
		彦根市都市建設部長	寺嶋 勲	出席